

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

宮城県		
学校名	管理機関名	設置者の別
気仙沼市立鹿折小学校（外1校）	気仙沼市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
気仙沼市立鹿折小学校	http://www.kesenuma.ed.jp/shishiori-syou/?action=common_download_main&upload_id=4761
気仙沼市立唐桑小学校	http://www.kesenuma.ed.jp/karakuwa-syou/?action=common_download_main&upload_id=3532

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
気仙沼市立鹿折小学校	http://www.kesenuma.ed.jp/shishiori-syou/?action=common_download_main&upload_id=4744	http://www.kesenuma.ed.jp/shishiori-syou/?action=common_download_main&upload_id=4744
気仙沼市立唐桑小学校	http://www.kesenuma.ed.jp/karakuwa-syou/?action=common_download_main&upload_id=3560	http://www.kesenuma.ed.jp/karakuwa-syou/?action=common_download_main&upload_id=3560

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

PTA 総会等で、教育課程特例校について保護者に説明する時間を設けている。
また、保護者が「海と生きる探究活動」の授業を参観したり、探究活動のまとめとして開催している発表会で、地域の方を招いて児童の発表の内容について意見をいただいたりすることで、独自の教育課程について理解を促している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

独自の領域である「海と生きる探究活動」では、以下の3つを目標に掲げ、実践に取り組んでいる。

- ①「海と生きる」気仙沼市の地域、環境、文化に関心をもち、自分とのつながりと関わりに目を向けながら意欲的に課題を解決することができる児童の育成
- ②自分の「問い」をもち、課題について自分のこととして学ぶ必要性と道筋を理解しながら他者と協働して学習を進め、自分の生活の在り方を深く考える児童の育成
- ③学ぶ目的や内容に応じた探究の仕方やまとめ方、表現を工夫しながら自分の考えについて道筋を立てて、分かりやすく説明する力

これまでの実践を経て、児童は地元の環境や文化に興味・関心をもって意欲的に体験活動に取り組み、自分の課題を解決する姿が見られるようになった。また、他校や異学年の発表を聞き、その良さを取り入れ、自分の考えをよりよいものにしたり、聞き手によく伝わるように言葉を選んで発表したりするようになった。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

標準学力調査や全国学力・学習状況調査の結果は、全国や県平均を下回っており、本教育課程が学力に直接的な影響を及ぼしているとは言いがたい。しかし、児童質問紙において、気仙沼に生きる自分たちが、自らの実践を重ね地域の持続可能な未来を支えていきたいという情意面や学習意欲の向上に貢献しているものと考えられる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

課題の解決のために、探究的な学習について、校内で年度初めに共通理解を図り、実践を進めているところである。また、現在ある各学年のカリキュラムについて、実践時の児童の様子を観察し、取組に応じて適時修正を加えながら実践を行っていくことを確認している。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症の対策が緩和されたことから、対面での活動を大切にし、地域の方や専門的な知識・技能を持った方々の話から、現状の把握と課題解決の方策の気づきを深めること、家に進んで話を聞くこと、子供たちの話し合いを中心に考えを練り合う活動を積極的に取り入れていくことも確認している。

さらに、気仙沼市が目指す人材が備えるべき資質として「海洋リテラシーfor 気仙沼」の育成を図ることを意識した学習活動を展開するとともに、「非認知能力」の一層の向上を目指す。